

『よみがえれ!舟運 ～人・川・まちをつなぐ船』

企画グループ サブリーダー 後藤勝洋

1. 本書の目的

移動手段としての舟運の歴史は、人類の発展の歴史とともにあります。古来より、川は人やモノを運ぶ“水の道”であり、経済・文化の大動脈として機能していました。陸上交通網の発達によって、我が国ではそれらの機能は失われて久しいですが、近年、主に観光ツールとして各地の川で舟運が復活し、地域の活性化に寄与しています。また舟運は、低炭素型の輸送形態、地震災害時の緊急輸送手段、帰宅困難者対策など、環境・防災面から見直されつつあります。

本書『よみがえれ!舟運 ～人・川・まちをつなぐ船』は、川船(船遊び)の魅力を伝えるとともに、日本各地の河川舟運や河岸の歴史、および現在の取り組みや課題をわかりやすく紹介することで、持続可能かつ安全・安心な社会形成に向けた河川舟運の新たな可能性を広く発信するために出版しました。



観光



物流



防災



レジャー

現在の河川舟運の利用形態

2. 内容

本書は、以下の視点を取り入れ、一般の方々、特に学生を対象に、水辺や舟運に関心を抱けるような内容としました。

- * 風土に根ざした国土創成(=持続可能な社会)という長期的視点を持って日本の舟運を考える。
- * 陸地(水辺のまち)とのつながりや物流における舟運の役割を考え、また、観光と防災がリンクするような舟運利用を考える。
- * 船遊びや現地体験記録など舟運に関する話題を

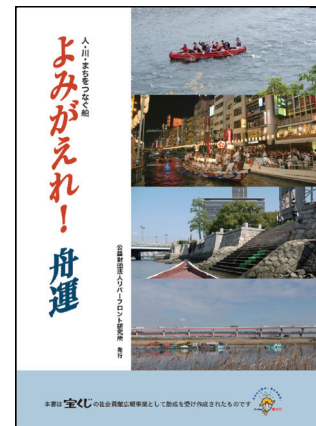
幅広く取り上げる。また、川遊びでの基本的な安全対策にも触れる。

- * 日本と海外の舟運事情を対比させて、それらの違いをわかるようにする。

3. 目次・構成

- はじめに 日本人を結んだ船と舟 (竹村公太郎)
- 絵図で辿る舟運時代 (編集部)
- 日本の川と船の来し方行く末 一船で物を運ぶということ (宮村忠)
- 東京スカイツリーと掘割 一江戸東京の河岸再考 (難波匡甫)
- アイヌが辿った“水の道” 一北大探検部の「勇払越え」追体験 (細田潤ほか)
- 夢とロマンの運河構想 (編集部)
- マーク・トウェイン、ミシシッピ河をゆく (編集部)
- にっぽん現代舟運事情 (江上和也)
- PART1 観光舟運の事例紹介
- PART2 「舟運力」アップのための処方箋
- 海外舟運事情 一水辺を活かすワザとココロ (江上和也)
- 七代目船宿主人が語る 船宿と舟運の過去・現在・未来 (新倉健司)
- その時、船をどう使う 一震災時における帰宅困難者輸送のケーススタディ (後藤勝洋)
- 水辺の交流ツール 「Eポート」って何だ? (橋本正法)
- お目見えフネの変わり種 水陸両用バス&現代版「ノアの方舟」 (編集部)
- 舟を楽しむためのセーフティ講座 (藤原尚雄)

なお、本書は、宝くじの社会貢献広報事業として助成をいただき、作成・出版したものです。



A4版/48頁